

『がん看護』 全5巻 がん医療に携わる 看護師が生の声で語る、 説得力ある映像教材

監修・指導：村上好恵／
定価：各巻 29,000 円＋税・5 巻セット 145,000 円＋税／
発行：株式会社ビデオ・パック・ニッポン／TEL：03-3405-3173



高齢化が進行する現代では、生涯で2人に1人ががんに罹患するといわれ、患者はがんと診断されたときからさまざまな苦痛を感じている。このDVDは、そんな今日のがん看護の入門として幅広い視点で学習できる教材である。

第1巻「がん看護に必要な基礎知識」では、がん患者の統計、がんの発生機序、リスク要因などから一次予防・二次予防の重要性がわかりやすく紹介されている。日進月歩のがん医療に対応するには、常に最新の知識と技術が必要であることが再認識できる。第2巻「がん治療と看護」は、がんの三大治療法である手術療法・化学療法・放射線療法の説明である。看護師には、患者家族が納得して治療法を選択できるように支援し、治療が安全に受けられるように、専門的な視点を持ったアプローチが求められている。

第3巻「多様ながん看護」の内容は、がんリハビリテーション、緩和ケア、終末期、小児である。共通するテーマは患者のQOLをいかに支えていくか、であろう。現代のがんは「不治の病」から「共存するもの」へとシフトしている。長く続く闘病生活だからこそ、その人らしく過ごせるように、チームアプローチの重要性が伝わる。第4巻「がん看護の実践」は、がん看護のスペシャリストとがんサバイバーの紹介である。国民の20人に1人が「がんサバイバー」となる時代、患者は多様な問題

を抱えている。がんサバイバー支援にも看護の力が大きく発揮されていくであろう。

第5巻「これからのがん看護」は、高度化・複雑化するがん医療で看護師に求められることが多面的にまとめられている。チーム医療のなかで看護師としての職業アイデンティティをもち、患者家族の意思決定を助け、最期までその人らしく生きられるように心身両面から支援するなど、あらゆる場面での活躍が期待されている。一方でがん患者とのかかわりでは、症状による苦痛や不安・怒りの訴え、日常的に遭遇する死などで、看護師の感情が揺さぶられる場面が多い。看護師自身のストレスマネジメントが重要という視点は従来の教材にはなく、斬新である。

各巻のDVDは10分前後の4つのファイルに分かれており、講義でのワンポイントレクチャーとして、臨地実習でのイメージづくりとして、テーマを決めたグループワークなど、教材として多様な使い方ができるだろう。そして、このDVDは教科書的な内容を映像化したものとは違い、がん医療に携わる多くの看護師が生の声で語っていることが特徴である。現場の経験に裏打ちされたメッセージには大変説得力があり、学生や新人看護師は勇気づけられることであろう。既習知識の整理や患者家族へのアプローチ法など、最新のがん看護を総論的に学びたい方にも最適内容である。